



# HYOUGE MONO YOSHINIRO YAMAOA

Sasuke Furuta  
Mokunaga Oda  
Hideyoshi Hashiba  
Mitsuhide Akechi  
Osam



# へうげもの 3

MORNING  
KID  
1545

へうげもの  
Hyouge Mono

3  
山田芳裕

YOSHINIRO YAMAOA

山田芳裕

講談社



9784063725452



1929979005146

雑誌 42666-45

ISBN4-06-372545-6

C9979 ¥514E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体514円(税別)

Edo Sengoku periodo di grandi rivalità feudali e sovvertimenti dell'ordine gerarchico.

Un uomo, consumato dai rituali del tè e dalla fame di ricchezza, aspira al successo nel mondo.

Si tratta di Furuta Sasuke, vassallo di Oda Nobunaga.

Istruito a una mondanità eccelsa dal genio di Nobunaga

e ad una mondanità esoterica dal seppio del tè, Senno Sousei (Rikyū),

continua la sua corsa sulla via del Hyouge-mono.

Vivere o morire? Combattere o essere sfortunato? Questo è il problema!

評語別集、下剋上の戦国時代。

立身出世を目論みながら、

茶の湯と物欲に溺れ奪われた男がいた。

織田信長の家臣・古田左介。

天才・信長から仕込まれた世界性を、

茶室・千宗円(利休)から深遠な精神性を学び、

「へうげもの」への道をひた走る。

生か死か。武か文か。それが問題だ!!



# WABBY 明智。

主君薨れてなお、物欲にSOULをたぎらせる男。それが

# 主人公・古田左介だ!!

# へいげモノ 3



## Hyouge Mono YOSHIHIRO YAMADA

Sasuke Fanta  
Nobunaga Oda  
Hideyoshi Hashiba  
Nishide Akachi  
Osori

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

HYOUGEMONO 3

哀しみの天主

無法の都

焼け跡の余韻

孤立のメッセージ

信長 ON MY MIND

ホワイテキヤツスルブルー

転がる糞のように

SUKIYAKI

夏をあきらめて

しがない歩兵

哀しみのミッドナイト・バーグル

10

© 2004 Blackwell Publishing Ltd

**Keywords:** *Parental involvement, Parental involvement strategies, Parental involvement barriers, Parental involvement facilitators, Parental involvement predictors, Parental involvement outcomes*

**Visit**

FOR YOUR PHONE, TEXT FOR LIFE

100



# Hyouge Mono

Epoca Sengoku: periodo di grandi rivalità feudali e sconvolgimenti dall'ordine gerarchico.

Un uomo, conquisito dai rituali del tè e dalla fame di conoscenza, si apre al successo nel mondo.

Si tratta di Furuta Sazuke, vascello di Oda Nobunaga  
trasferto a una monastero ecclesiastica del nome di Nobunaga  
e ad una monastero ecclesiastica del nome del 16. Sono Sazuke  
continua la sua corsa sulla via del Furogawa-mono.

## «Ma non si merita? Comunque è essere sfortunato? Questo è il problema»



**山田芳裕**  
YOSHIMIRO YAMADA





第二十一席

哀しみの

天主











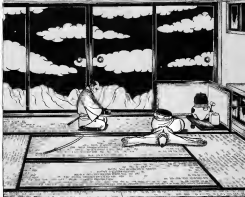


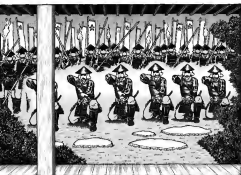
「愛」よ

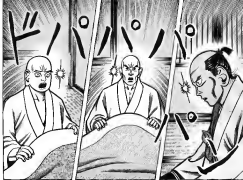










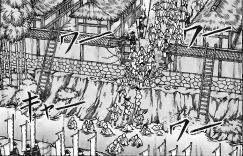












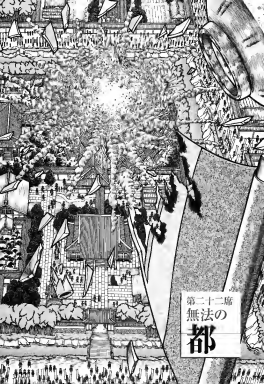




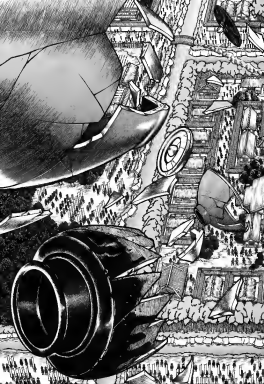


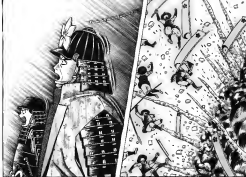






第二十二席  
無法の  
**都**







難は嘆き乱れるのではなく

一輪あらば  
よろしいの  
です



何事だ

奥書院  
一帯が爆発  
しました!!



申し上げ  
ます!!



信長が捕虜  
信忠が密所  
妙覚寺を脱ぎ  
出すのだ!!

二条御所へ  
立て籠った由に  
ござります!!



兵を  
戻せ!

負傷した  
者を選び  
出すのだ!!





そのうえで  
こちらの兵を  
二条御所に  
向かわす!

一旦休憩し  
親王にお参り  
頂くのだ!



二条御所には  
親王及び公家衆が  
おられます!

いかが致し  
ますか??



オ オ オ



オ オ



なぜ本願寺に  
これほどの  
爆薬が……

常に襲撃を予測  
していたとでも  
いうのか……



同日午前  
京・二条御所



公家衆に粉れ  
早くお逃げ  
ください!



まもなく戦が  
始まります  
御田様!



明智の太事衆には  
とてつと応戦  
できませぬ……!!



織田家の衆が  
そのような  
真似はできぬ!

たゞよふ……から  
逃げ果せようと  
明智めは京の国境を  
悪いでおるわ!











同日午前8時  
山城町 西園寺









迂回して  
何とか本陣寺  
へ……

そして  
あの旗印は  
……











終

6月20日の10時  
京大本丸跡（京都市中央区）

関係のある  
亡骸は  
法衣に包んで  
運ぶのだ

徳田家と徳田家の奥に  
阿弥陀仏の者が  
手早く焼骨散うねば

こうも  
バラバラでは  
上様のお身体は  
見つかりそうも  
ないがの……

あの方は

はて……  
明智の者では  
なさそうだが

かわいそう  
に……

亡き上様を偲んで  
器具でも壊して  
おるのであるう





第二十三席

# 焼け跡

の余韻









彌佐役の長持様が  
運命をとものにせず  
いかなする!!

貴殿は真に  
武人にござり  
ますか!?

なんなら  
それがしが  
ここで介錯  
仕りまする!!



ならばお前は  
真つ當な武人だと  
申すか 古左



疾しいところの  
いっさいない  
武人の鑑とでも



真つ當も  
真つ當……





その出で立ちも  
殊覺けりに遣う







この国のこと  
俺にはわかり  
ない

だが俺には  
世話になった

その借りは  
返す



……  
このように  
挨拶で……

すべてを  
聞くのは  
あるまし  
すぎる……



しかし上様の  
ご位牌代わりと  
いうなら  
一つだけ頂戴仕る



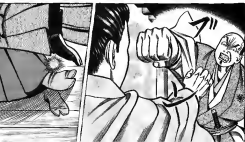








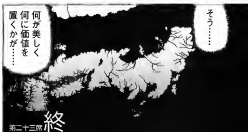












1582年6月3日  
山城、カスサマ、カサマ、カサマ





第二十四席

**孤立の**  
メッセージ





















ただちに  
三河へ戻る

明智と  
それがしの  
大義は等しい

ならば  
我らを助ぐ  
理由はない



明智の助  
ひとづに勝てる  
と申されるか



三河へは  
伊賀、越えが最速に  
ございます

途中それがしが  
伊賀、甲賀の者どもに  
助けを求めまする

頼むぞ  
平蔵！













ここは御路より  
秀吉様が戻られる  
を待つが得難ぞ!!



ま………  
待たれい  
秀長殿!!  
いささか  
強引に  
過ぎぬか!!



それでは  
悪い!

兄上の  
代わりは  
影で充分

やれるな  
妹須賀殿



ガヤ  
ガヤ



毛利方の外交僧  
安國寺惠庵とは  
すでに晩年……

あの男さえ  
抱きめれば  
可憐にござる









いかに

ここで  
集っては



まだみな  
織田信長という怪物が  
死んだ現実を  
受け入れておらぬのだ



模範典く重政を  
出し続けられは

みな必ず  
気づいてくれる  
はず……



私の想い描く  
世のほうが

怪物がものより  
美しいという  
ことを

終

第二十四回







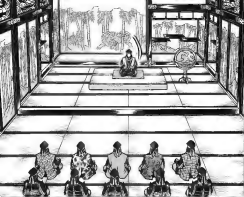
第二十五席

信長

ON MY MIND















明智殿からも  
書状が届いた  
………

「信長を  
討ち果たしたので  
我らに加勢して  
ほしい」



明智殿介にも  
お返しを  
ようしく  
お返し  
したい



一体どちらが  
真なのだ!!!

信長公は  
生きておら  
れるのか!!!



残念ながら  
それは  
ございませぬ

それがしは  
この目でしかと  
京の様子を見て  
参りました























すでに諸將が  
続々と俺に  
なびいておる  
……

池田勝……  
高山勝……  
丹羽勝……  
佐々勝……

京の周りは  
俺の味方よ



高松の奥長らとは  
尾崎城で合戦する  
ことになった

そうなれば  
北條におる  
勝田勝より早く  
明智と戦うことに  
なろう



勝てば俺は  
官軍の将として  
天下の実権を  
握れる

そして  
左介エ





ここからが  
ふんばりどころ  
よな……

中川殿の手紙  
しかと読むぞ  
……



のう  
……

左介エ  
……



頼むぞお  
左介エ……



……  
この俺が

……  
大大名



……この俺が  
一国一城の主  
……!!!

終

1582年6月7日

三河岡崎城



第二十六席

# ホワイト

キャッスルブルース













6月8日  
近江国・安土城  
近衛基安土町

安土の守備  
しかと頼むぞ  
秀満























申川清海はどの武将が  
人質を出したとすれば  
陣持も気張って俺に  
付きたがるだろう！

ひょっとしたら  
さらに味方が  
増えるかもしれん  
しのや



ほれっ

俺が言った  
証として  
この足袋持って  
先に行けっ



いやいや  
誰でもよいのだ  
人質はっ

親や子でのうても  
誰でもかまわん  
てっ



人質ならぬ  
物資ならば  
基兄上も……

あほ介  
が!!









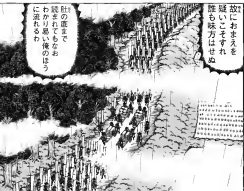
だが  
偉いからこそ誰も  
おまえを信じぬ

人間とは  
動機に私利私欲が  
伴わねば  
納得せぬもの



おまえが  
信長殿を  
決行したのは

本心から家臣や  
民の行く末を  
想うたからで  
あるう



故におまえを  
疑いこそすれ  
誰も味方はせぬ

吐の度まで  
疑まれてもお  
わかり易い俺のほう  
に流れるわ







第二十七席

転がる

**糞**

のように





羽柴様古だ

は……



羽柴殿の  
ご嘆願どおり!!

この中川が  
家老の件……!!  
差し上げ仕る  
……!!













奥の院は別荘を  
後押しになると  
……

ついでに戦後に  
奥の院をこの  
御世に……



同じく戦後に  
この御世に  
ある……

奥の院  
足利家の  
御世を



ふっ……

もはや  
足利家など  
過去の遺物  
だが……

奥の院の御世に  
足利家こそ  
知らしめるには  
丁度よい……



そして戦の  
結果についても  
お話しを



古銅花生  
銘を「桃尻」……



これにて  
命ばかりは  
助けて頂きとう  
存じます

もはや私は  
悪友を全てた  
りて木村屋では  
ございませぬ

風雨に晒され  
塵埃に落ちたる  
貴の如きものに  
なつたと  
お思ひください







おまえは  
あの時の  
雄兵やな



安心  
なされ

その方の  
身柄は預かる

評定へ戻るぞ  
左介



たまたま運命に  
なろうが……

己が嫌やった  
ことを誰を  
下げようが……

わしは密かに  
勝つておる



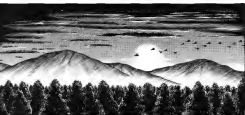
これがわしの  
生き様や























あれは羽柴隊  
金軍が引き返して  
きたとしか  
思えませぬ!!!

明らかに信長を弔う  
不思議な旗を翻し  
敵意を露あらわにして  
おります!!!



1592年6月11日午後10時  
山城町下口は、大軍が押し寄せた。



急げ  
!!!



明使節は  
すぐにでも  
京へ攻めよとぞ  
!!

下馬場で軍勢を  
整え、京の入り口  
大山崎にて  
迎え討つのだ!!



あり得ると  
すれば――

私が本陣等を  
襲う以前から  
計画してあく  
以外ない……

だとすれば  
……



あり得ぬ  
……

一万を喰える  
軍勢のこと秋田で  
高松から引き返す  
ことなど……!!



私は羽柴に  
謀られていた  
のだ!!

第二十八席

**SUKI**  
YAKI









明智は世を  
正すための戦！  
羽柴は天下を  
獲るための戦！

徳川がいずれに  
つくべきかは  
もはや明白！

きりとして  
殿！

城内の諸侯は  
今や羽柴に  
……

貴殿らがそのつもり  
なら、それがしも  
動かぬ！

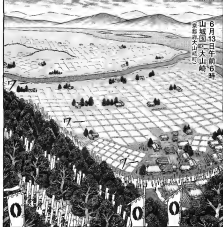
ここは動かす  
動静を察するが  
得意ですぞ！

それが  
三河武士団の名に  
恥ぢぬものならば  
な！





6月13日午前6時  
山城国・大山崎  
京都府大山崎町





よし!!

先陣の善戦は  
高山殿に響ら  
れたが……

この中川とて  
引けは取らぬと  
証明したわ!!



善兄上  
あれを!!



真の戦は  
これからぞ!!

我が本陣は  
小泉川殿に  
陣形を整える!!

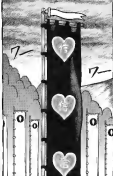


ようやく  
合流か……

先鋒殿に  
佐々様 丹羽殿の  
大軍が……









古田左介

一待……

一体  
どのような  
御仁なのだ



真兄上  
この匂いは……

陸の高山陣  
よりか……

悪うて聞わけずん  
ために待つて  
くれぬか?









お言葉に  
甘えて



天守  
ですぞ



如何ですか  
おひとつ



鍋に掛けて

これを  
「鰯の船」と  
読ましては如何  
でしょう





抹茶を  
そんな大量  
に……

……



そして敵が  
明言するとあらば  
……

室の關本では  
流し切れませぬ  
ぞ



敵奇者・  
古田左介の  
心意氣にござる!!!

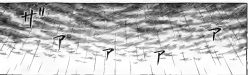


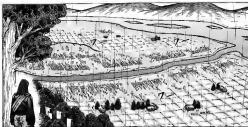
茶は氣を  
磨らせ申す  
……

しかと目に  
焼き付けて  
くだされ……

これが後  
に  
大名となる  
……







1582年6月13日午後四時  
山崎 大坂 山崎 大坂







世にその名を  
燦然と輝かせ  
ましようぞ!!

第二十九席

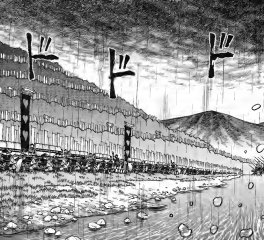
夏を  
あきらめて





































できぬ

俺にはできぬ……!!

いずれおまえも  
決めねばならぬ

圧倒的な  
力を持つ者が  
現れた時

わしの道を選ぶか  
あきらめる道を選  
ぶかをな



あきらめ  
よう……

あきらめて  
……

生き延びる  
のだ





第三十席  
しが  
ない  
歩兵

1582年8月13日午後8時  
尾張国・境海老名古戦場にて



徳川様  
!!



外郎方は徳川様  
陣移りが助わり  
西方に隠れ上がった

一昨日のことゆえ  
その後はわかりま  
せんが……

これでは  
明智方は  
……!!



流りの者から  
城内の情勢を  
聞き出しましたっ  
!!

申せ!!











行くぞ  
はん蔵!!



家康様は  
三方原の絵を  
お忘れでない  
ますか!!!



わざと醜く  
描かせた あの  
絵のことを!!











死に近づけば  
近づくほど……

「カギ」もまた  
はうきりた  
わがままな  
ものと存じます

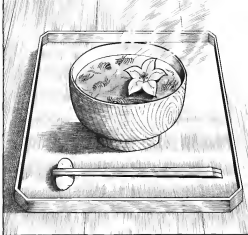


それにしても  
粗末よの……

よいでは  
ないか……

近所の噂を  
思い出し  
食らうもまた  
一興……























1582年6月14日午前7時

山城國・小栗郷(京都府八咫市)







第三十一席

哀しみの

ミッドナイト

パープル



明智様!!



民衆のために  
決断した者が

その世に  
首領は置ける  
勝つた者とは



だ……  
大事は!?

不意……

勝を失われ  
竹城に賣かれ  
ました……



我らは悪徳まで  
商人でありたい  
のだ



だから出で立ちを  
変えなされと  
申し上げたのです!!

これではまた  
士民に買つかり  
ますぞ!!

それは  
できぬ

















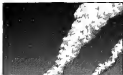












6月14日午後8時  
足利国・坂本郡・高野村の山

















# Ukon Takayama

高山右近

1552 (天文21) 年、河津国生まれ。12歳で流刑を受けた教養な  
キリシタン。1581 (天正9) 年、羽田秀吉の島根城攻めを援軍。  
左介に要する十字軍を授ける。翌年、甲州征伐で左介を助けたの  
は、アブ・マフムド・アブ・ハジムと名前、好きな色、アクア・ブルー。

# Kiyohide Nakagawa

中川清秀

1542 (天文11) 年、河津国生まれ。左介の妹・おせんの子。  
1578 (天正6) 年、本國寺攻めの最中、信長に殺害を願った  
上野・荒木村重に誘おうとするが、左介とおせんの内縁狂馬  
に陥る。左介の物語の裏まじりをたしめなめるアングロ教員。  
好きな色、アイザリー。



異国時代か、異国時代か。

別体と異色の両面が、左介の人生に光るす。

# へうげだす 4

## 今冬発売予定にて候!!

# Hyunge Mono

## INTRODUCTION

$$2x^2 - 4x + 4 = 2x^2 - 4x + 4$$

1000

ONLY A PAPER

10

10

100

1



10

10

つるしAND龍胆 / EARTH, WIND & FIRE  
我が心のジョージア / Rainbow

THE UNIVERSITY OF CHICAGO



4

100

1

100

100

100

10

110

**NOTHING TO**



9784063725452



1929979005146

雑誌 42666-45

ISBN4-06-372545-6

C9979 ¥514E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体514円(税別)

Epoca Sengoku: periodo di grandi rivalità feudali e sovvertimenti dell'ordine gerarchico.  
Un uomo, consumato dai rituali del tè e dalla fame di ricchezza, aspira al successo nel mondo.  
Si tratta di Furuta Sasuke, vassallo di Oda Nobunaga.  
Istruito a una mondanità eccelsa dal genio di Nobunaga e ad una mondanità esoterica dal saggio del tè, Senno Soueki (Rikyu), continua la sua corsa sulla via del Hyouge-mono.  
Vivere o morire? Combattere o essere sfortunato? Questo è il problema!

群雄割拠、下剋上の戦国時代。  
立身出世を目論みながら、  
茶の湯と情欲に耽る貴族の男がいた。  
織田信長の家臣・赤田玄介。  
天才・信長から壮大な野望性、  
豪傑・千宗盛(利休)から深遠な精神性を学び、  
「へうげもの」への道をひた走る。  
生か死か。武か文か。それが問題だ!!



誰でっかちでも肉体バカでもダメだっ  
つーのは、誰でもわかってるよね  
安土・桃山の驚奇者ってのは  
1ミリほどの色の変化がわかる感嘆人にして  
死ぬまでぶつかり合う武人  
歴史上もっとも「知識」じゃなく「知恵」を  
持ってた人たちなんじゃないすかね  
私も見習いたいものです

山田芳裕



Sasuke Furuta  
Nobunaga Oda



Hideyoshi  
Mitsuhide Akechi



Hashiba  
Mitsuhide Akechi



Osen